

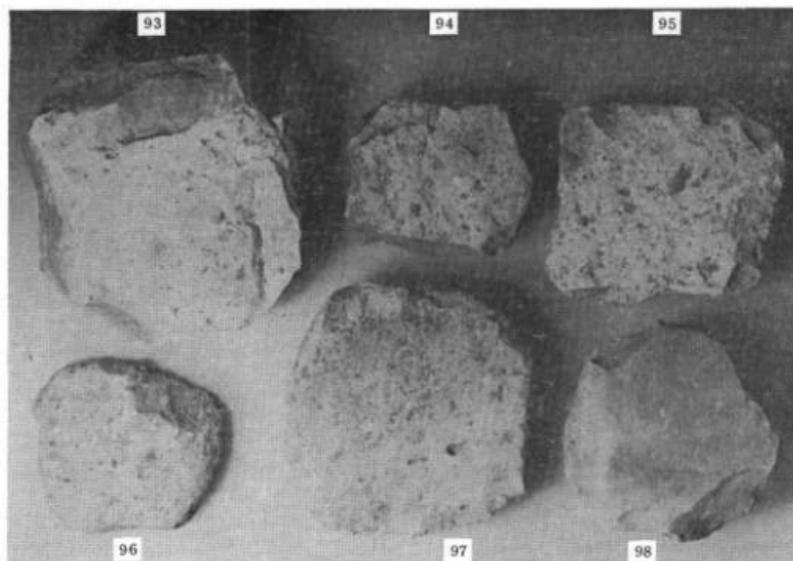
☆ [楕円形扁平石器・石錘] → S・P・L 13

• (87~90)は、楕円形扁平石器である。いずれも流紋岩製である。

このものは(P・L 12)と同様、側辺に細部加工のあるもので、その用途・機能は(P・L 12)の1類と同様と思われる。

☆ (87~90)は、一応II類に分類したいと考える。

• (91・92)は、前者(87~90)に類似するが剝離が荒く、一応石錘の仲間として分類した。
しかし、楕円形扁平石器の疑いもある。



☆ [方形扁平石器] → S・P・L 14

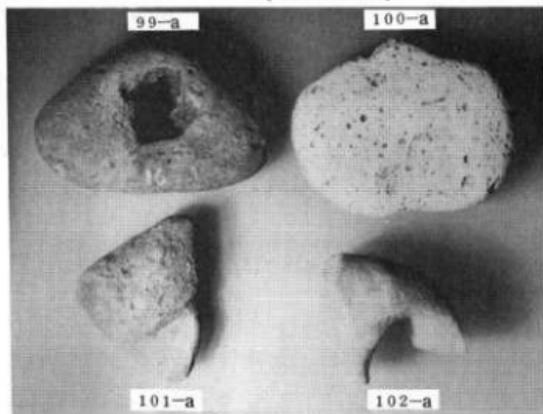
- ・ここに掲げたものは、その形態によって (S・P・L 12、S・P・L 13) と比較して、Ⅲ類に分類した方形扁平石器である。
- ・岩質は、(93~97) は、流紋岩製 (98) は、硬質頁岩製である。
- ・これらの (93~98) も、(S・P・L 12、S・P・L 13) の扁平石器と同様、側辺に細部加工が施されたもので、その剥離手法に共通性を認める。

☆すなわち、(S・P・L 12) のⅠ類、(S・P・L 13) のⅡ類、(S・P・L 14) のⅢ類にその形態によって類別が可能である。

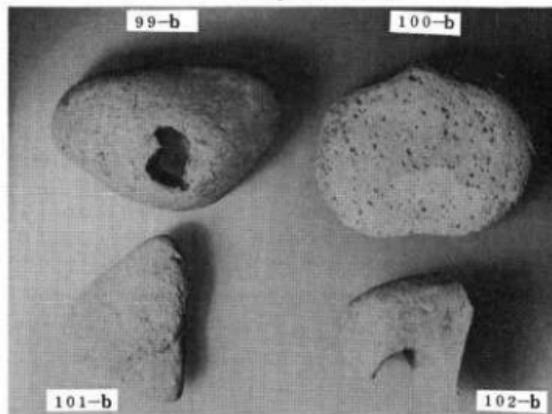
☆岩質は、流紋岩が、(98) を除く全部で、その岩質と用途との関連が追求される必要があらう。

☆また、本遺跡の特徴として、このⅠ・Ⅱ・Ⅲ類の出土数が他の遺跡に比して多いように考えられる。

〔穿孔石・異形石器・三角形石器・岩偶〕 S・P・L 15
→(99a~102a)



〔穿孔石・異形石器・三角形石器・岩偶〕 S・P・L 16
→(99b~102b)

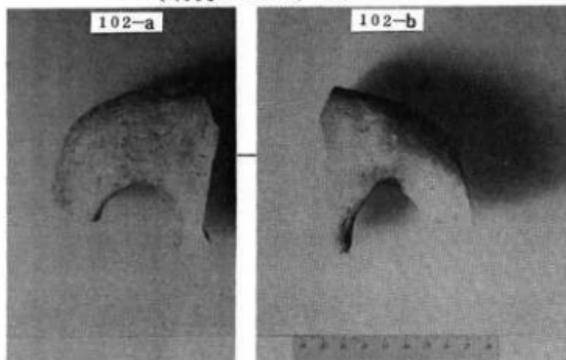


☆〔穿孔石・異形石器・三角形石器・岩偶〕→S・P・L 15
 ・(99~a)は、自然石に穿孔のあるもの(100-a)は剝離痕のあるもので、ともに流紋岩である。(101a)は、三角形石器、(102-a)は、岩偶破片で、前者は、ひん岩、後者は流紋岩製である。

☆S・P・L 15の裏面である。

〔岩 偶〕 → (102a, 102b)
(再掲P・L 15, 16)

S・P・L 17



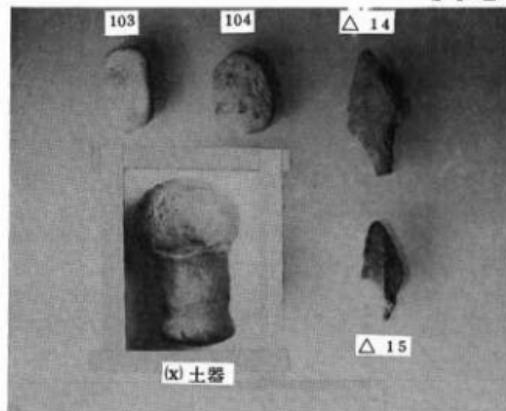
(再掲-P・L15, 16)

☆ (102-a, 102-b) は、岩偶破片で、a=表面、b=裏面である。岩質は流紋岩製で肩部の残欠である。

☆ なお、このものは、(P・L15, 16)にも掲示した。

〔原石・石鏃・土偶〕 → {103~104, 14, 15, ∞}

S・P・L 18

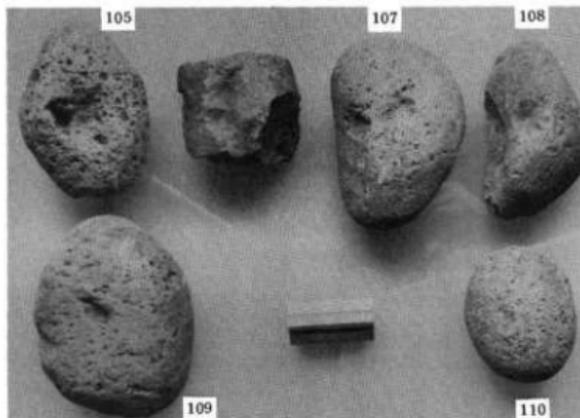


☆〔原石・石鏃・土偶〕→S・P・L18

- (103・104)は自然石で加工はない。前者は、凝灰岩、後者は、流紋岩である。ともに淡い緑色を呈している。縄文人は、緑色を好む傾向があるように考えられる。
- (△14, △15)は、ともに頁岩製で石鏃である。このものは、(S・P・L1)の項でもふれた。
- (×)は、土偶脚部の残欠である。

[クボミ石・タタキ石] → (105~110)

S・P・L 19



☆ [クボミ石・タタキ石] → S・P・L 19

- ・ (105~109) は、クボミ石で、岩質は流紋岩である。
- ・ また、(110) は、タタキ石(ハンマー)であって長軸の上・下端に打痕を認めるものである。

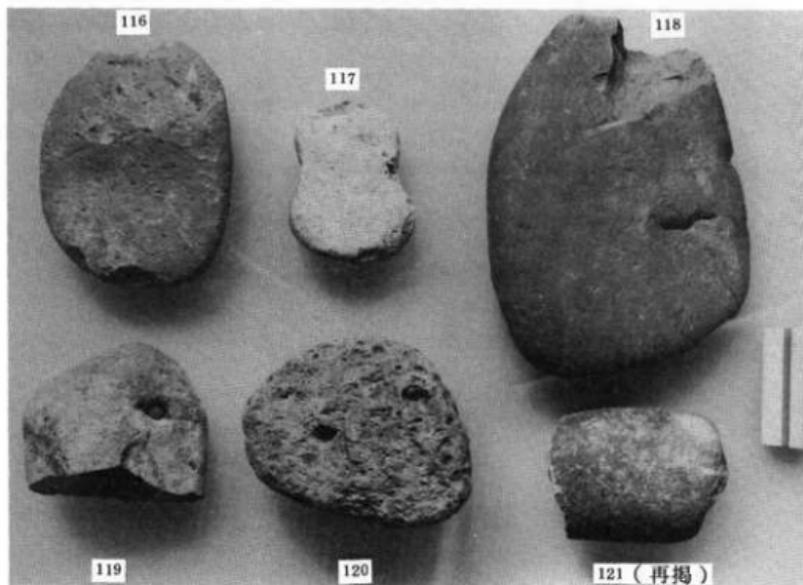
[クボミ石・タタキ石] → (111~115)

S・P・L 20



☆ [クボミ石・タタキ石] → S・P・L 20

- ・ ここに掲げたもののうち、(111~113, 115) は、クボミ石で、このうち、(111・112, 115) は流紋岩、(113) は頁岩である。
 - ・ また、(114) は、タタキ石(ハンマー)であって、岩質は、花崗せん緑岩である。
- ☆ (P・L 19) および (P・L 20) とともにクボミ石
タタキ石とも不定形のものが多い。

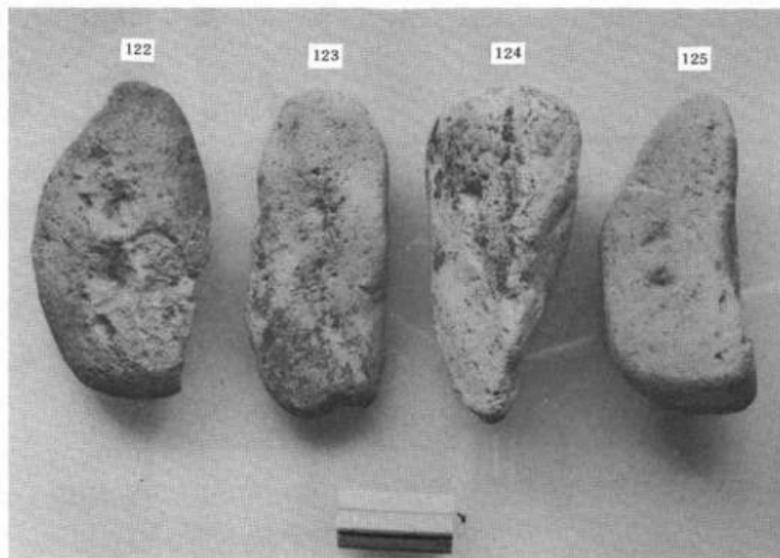


☆(石錘・穿孔石・未完穿孔ウキ・羽口状石製品)→S・P・L 21

- ・ここに掲げたもののうち、(116~118)は石錘である。また、(119)は、表裏より穿孔のあるもの、(120)は軽石に貫通しない穿孔のあるものである。多分、ウキの一種と思われる。
- ・また、(121)は、羽口状石製品で、円筒形をなすものらしい。そしてこのものは、(P・L 28-121a・b)に示したように約径3cm程度の貫通孔がある。(注：縄文時代のものとは思われないものであって恐らく、歴史時代のものと推察される。)
- ・岩質は、(116~118)は、流紋岩、(119・121)は泥岩、(120)は、浮石である。

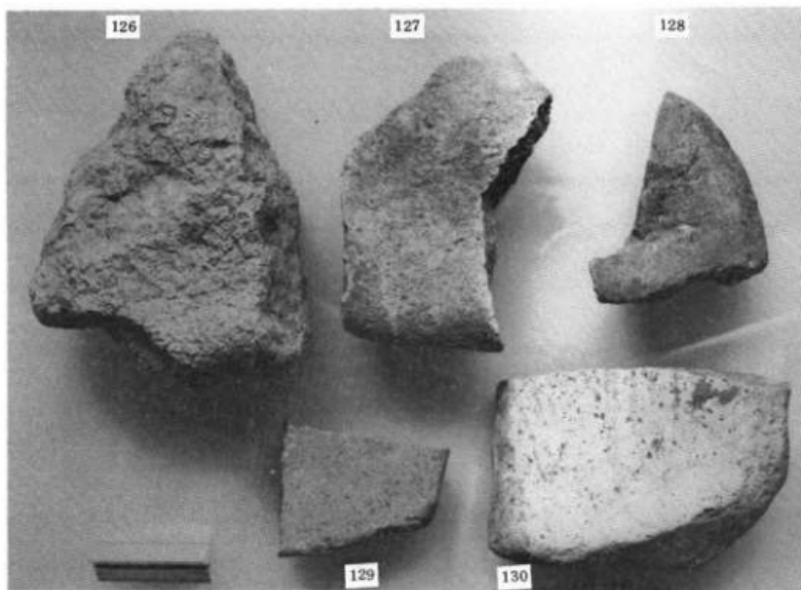
☆石錘について、既述のように、(S・P・L 10-72, S・P・L 11-77)当津軽地方(特に西・北・五地方)では、渡辺誠氏の分類による、いわゆる切石右錘A・B種は見あたらない。

(116)の打欠きが長軸の上下端にある打欠きA種、また、(117)のように打欠きが短軸の両端にある打欠きB種が主流となるようであって、(118)もA種の仲間であろう。本遺跡では、同C種の出土はなかった。



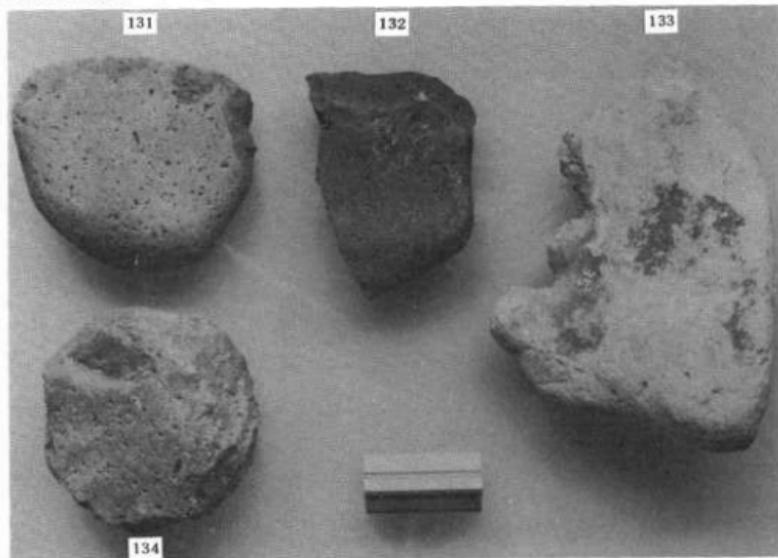
☆〔不定形細長クボミ石〕→S・P・L 22

- ・ここに掲げたものは、いずれも流紋岩を利用したクボミ石である。
 - ・形状は不定形細長の自然石を用いており、表・裏に2~3ヶのクボミを有するものである。
 - ・既述のように、(S・P・L 19-20)クボミ石の岩質は、流紋岩が多く、この傾向は、本遺跡のみの特徴ではなく、縄文時代後期・晩期の一般的傾向と考えられる。
- ☆クボミ石をその形態によって類別すれば、(S・P・L 19-20)に掲げたように、楕円形(不整)をなすものをⅠ類、不定形をなすものをⅡ類、そして、(S・P・L 22)に示した、不定形細長クボミ石をⅢ類に類別が可能である。



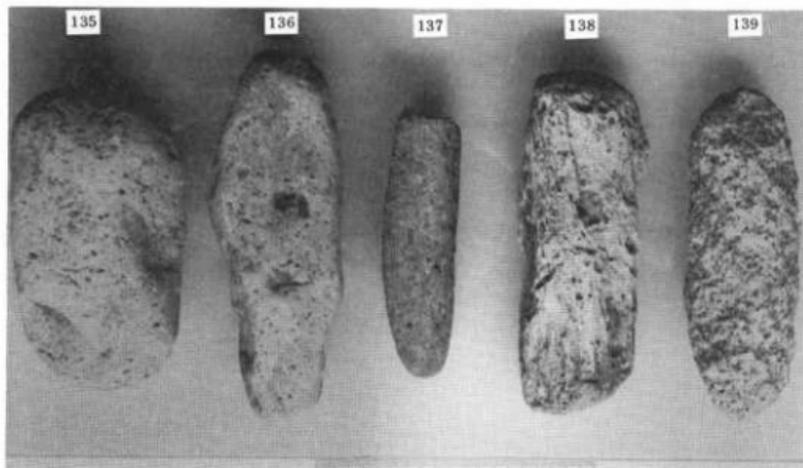
☆〔石皿破片〕→S・P・L 23

- ・ここに掲げたものは、いずれも石皿の破片である。これらのものの岩質は、(126)は、緑色凝灰岩、(128~130)は、いずれも流紋岩製であって、これらの岩石を、縄文人は好んで石皿に活用している。
- ・なお、このたびの調査では、完形品は出土しなかった。いずれも使用面に痕跡(使用痕)を認めるものである。



☆〔楕円形扁平石器・抉入石器・円盤状石器〕→S・P・L 24

- ・ここに掲げたもののうち、(131・132)は楕円形扁平石器、(133)は抉入石器、(134)は大形の円盤状石器である。
 - ・岩質は、(131・132)は流紋岩、(133)は凝灰質泥岩、(134)は流紋岩である。
 - ・楕円形扁平石器(131・132)は、上端に刃部があり、(133)は、ノッチが左側辺に2ヶ見られ、(134)は側辺に細部加工が認められる。
- ☆既述のように(S・P・L 12-13-14)、(134)は、(S・P・L 12)の同類であろう。
本遺跡では、円盤状、楕円形、方形の扁平石器の出土は多い。これらのものを、(S・P・L 12)は、Ⅰ類、(S・P・L 13)はⅡ類、(S・P・L 14)はⅢ類に類別できる。
- ☆また、(131・132)とした楕円形扁平石器は刃部を有するものでこのものは、前者のⅠ・Ⅱ・Ⅲ類と機能・用途等は異なるものである。

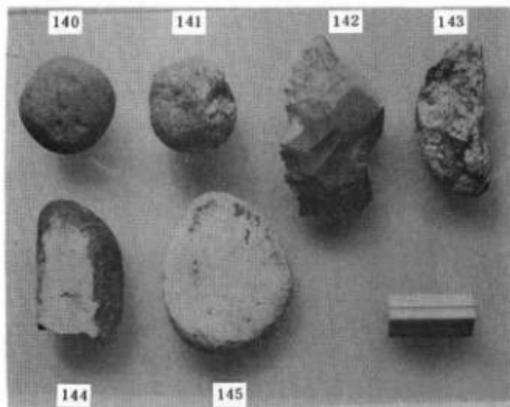


☆〔細長で磨痕打痕のある石器〕→S・P・L 25

- ・ここに掲げたものは、細長で磨痕と打痕のあるものを掲げた。
- ・(135・136・138・139)は、上・下端に敲打痕のあるものであり、また(135)には、剝離痕もある。さらに(136・138)には、クボミも見られるが、やや方形で、クボミ石のそれとは異なる。
- ・(137)は全面が滑らかであって磨痕を認める。
- ・岩質は、(135・136・138)は流紋岩、(137)は安山岩、(139)は、花崗閃緑岩である。

〔石器各種〕→(140~145)

S・P・L 26

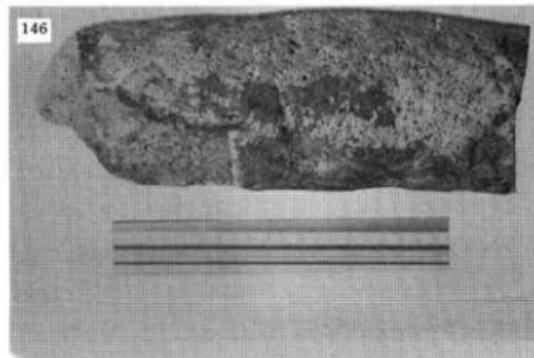


☆〔石器各種〕→S・P・L 26

- 種々の石器をここでは一括して掲げた。(140・141)は球形石器、(142)は未完の大形石槍、(143)は、半月形石器、(144)は、石刀状石器、(145)は、滑面を見せる円形石器である。
- 岩質は、(140)はホルンフェルス、(141)はめのう、(142~144)は頁岩、(145)は流紋岩である。

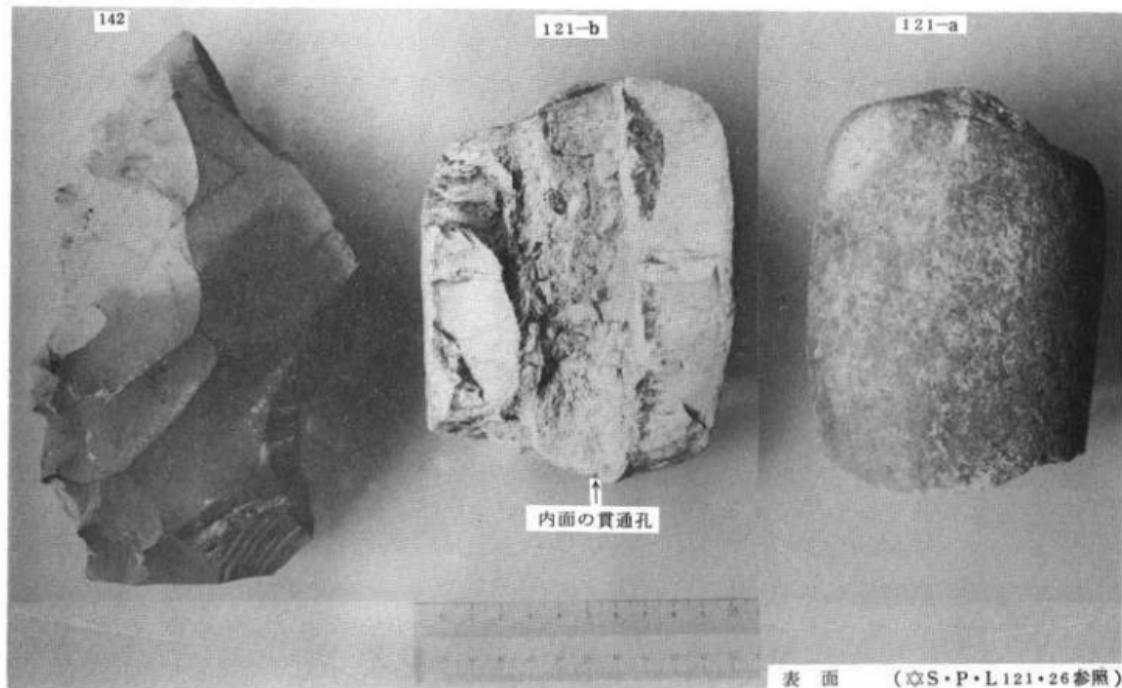
〔大形石棒状石器〕→(146)

S・P・L 27



☆〔大形石棒状石器〕→S・P・L 27

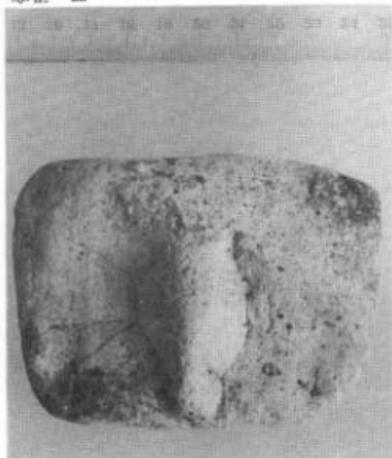
- 大形の石棒状石器の残欠と思われるが断定は控える。
- 岩質は流紋岩である。



(岩面・角礫・円礫・鉄滓) → (a・b・c, 147~149)

S・P・L 29

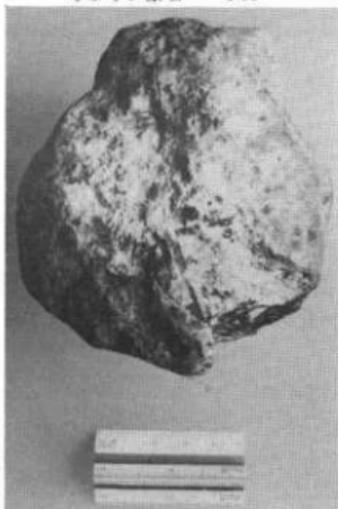
☆正面 150a



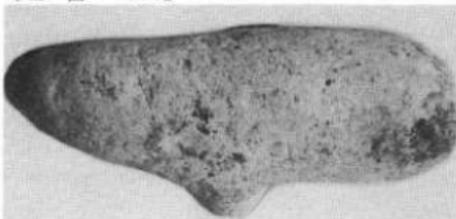
(岩面)



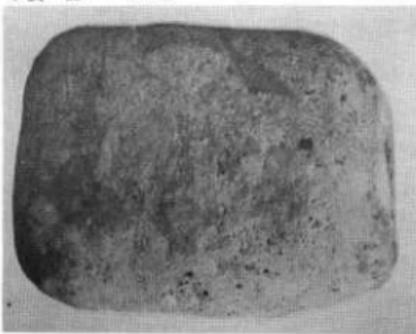
☆ひすい原石 148



☆上面 150b



☆裏面 150c



☆鉄石英 147

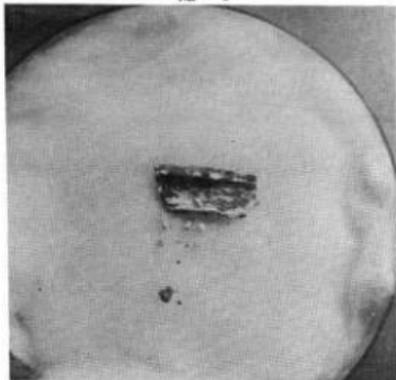


☆鉄滓 149

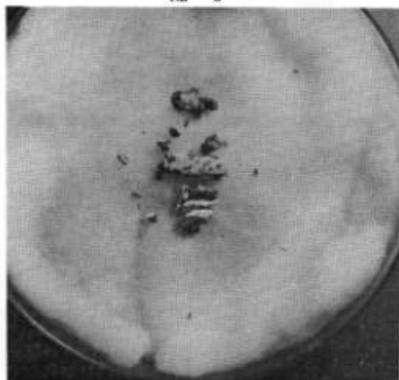


[B地区出土骨片] → (B·P·L 1 - 61 ~ 65) (表3参照)

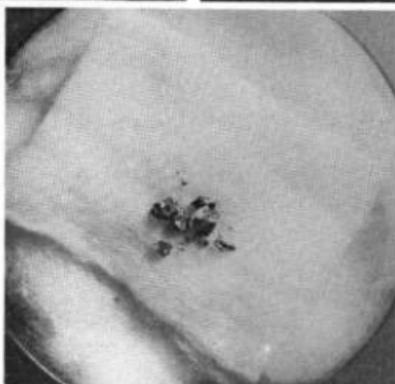
№ 1



№ 2



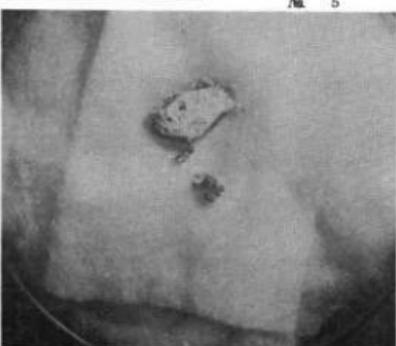
№ 3



№ 4



№ 5

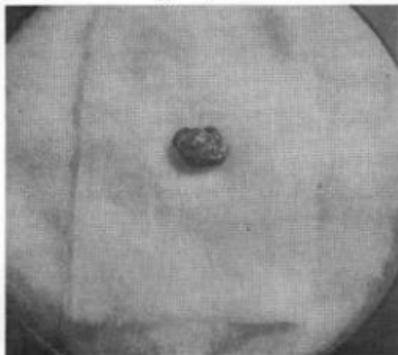


[B地区出土、骨片・染付破片等] → (B・P・L 2 - Ⅵ 6 ~ Ⅵ 10) (表 3 参照)

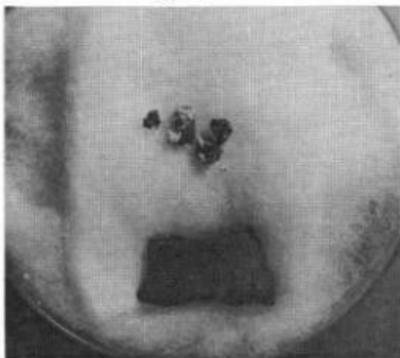
№ 6



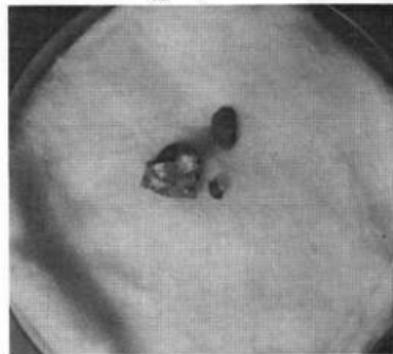
№ 7



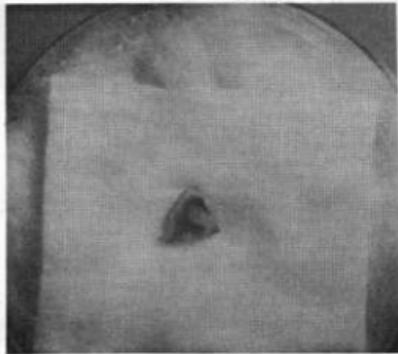
№ 8



№ 9



№ 10



[A地区出土、骨片・堅果類] → (B・P・L 3 - 系 11 ~ 系 14・X) (表 3 参照)



№ 11



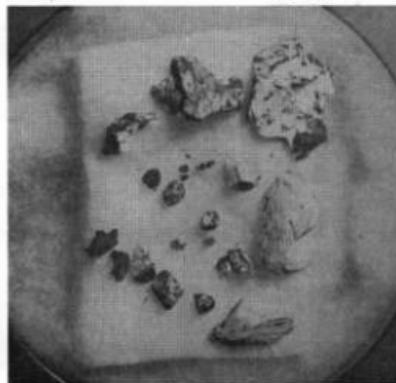
№ 12



№ 13



№ 14



№ X

〔参考資料〕→五所川原市「狐野製鉄遺跡」炉内出土鉄塊分析表

(表X)

| 遺跡名 | 2.1. 大山 (D区b-1号炉) (埼玉) | 2.2. 西浦北 (K ₂) (埼玉) | 2.3. 金井 (群馬) | 2.4. 狐野 (青森) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------------------------|---------------------------------|--------------------------------|-------------------|-----|---------------------------------|-------|------|------|--------------------------------|---------------------------------|-------|------|------|----------------------|------------------|--------------------------------|------------------|-------|------|-----|------------------|-----|--------------------------------|------------------|---|-----|----|
| 所在地 | 北足立郡伊奈町大字小室 | 大里郡岡部町 | 茨川市金井前原1343番地 | 五所川原市大字飯詰狐野169-14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 遺構型式 | 竪炉 | 円筒状炉 | 竪炉 | 竪炉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 推定年代 | 平安時代中頃 | 11世紀前半以降(平安末期) | 9世紀後葉 | 平安時代 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 立地条件 | 舌状台地西斜面 | 平坦地 | 段丘斜面 | 緩傾斜の南西斜面 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 同伴炭産有無 | 黒炭焼成産、小炭焼成産 | | 黒炭用産5基 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 遺構実測図 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉱物組成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 化学組成 | Ilmenite + Fayalite | | | | | Magnetite + Wiistite + Fayalite | | | | | Magnetite + Wiistite + Fayalite | | | | | Ilmenite | | | | | | | | | | | | |
| | T・Fe | 造成 | 浮分 | TiO ₂ | V | CaO | T・Fe | 造成 | 浮分 | TiO ₂ | V | CaO | T・Fe | 造成 | 浮分 | TiO ₂ | V | CaO | T・Fe | 造成 | 浮分 | TiO ₂ | V | CaO | | | | |
| 原料推定 | 2.03 | 5.19 | 10.4 | 0.36 | 9.8 | 4.91 | 24.95 | 5.27 | 0.21 | 3.96 | 5.394 | 34.40 | 6.3 | 0.39 | 3.1 | 21.32 | 34.26 | 35.96 | 0.072 | 23.0 | 砂 鉄 | | | | | | | |
| 原料分析値 | T・Fe | FeO | Fe ₂ O ₃ | TiO ₂ | V | MnO | Cu | T・Fe | FeO | Fe ₂ O ₃ | TiO ₂ | V | MnO | Cu | T・Fe | FeO | Fe ₂ O ₃ | TiO ₂ | V | MnO | Cu | T・Fe | FeO | Fe ₂ O ₃ | TiO ₂ | V | MnO | Cu |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | 原料分析値は製鉄炉前庭部より出土した砂鉄 | | | | | | | 原料分析値は炉内より出土の鉄塊 | | | | | | |

五所川原市埋蔵文化財発掘報告書 第7集

観音林遺跡（第二次）

- 発行年月日 昭和59年3月20日
- 発行者 青森県五所川原市教育委員会
代表 教育長 鈴木太左衛門
住所 五所川原市岩木町12番地
- 著者 新谷 雄 蔵
川村 真 一
- 印刷所 株式会社 陸奥印刷

